義太夫

義太夫協会々報
第４号
昭和４９年８月１５日
社団法人　義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6－18－2
新橋演舞場別館 TEL(541)5471

「たゆう」のこと

会長　吉川英史

「たゆう」は、大夫とも太夫とも書く。今では義太夫をはじめ、常磐津・清元など浄瑠璃の語り手をさすようになっているが、本来は中国にならった官位の称号であった。そして大夫が正しかったが、のちに太夫の字が使われるようになったのである。

浄瑠璃の太夫のほか、能楽の太夫とか、獅子舞の太夫とか、万歳の太夫とか、芸能関係で太夫と呼ばれるものがたくさんある。歌舞伎では、女形の首位のものを太夫というようになったし、高級な遊女も太夫といった。

このように、中世以降の芸人のばあいは、義太夫をふくめて、ほとんど太夫と「太」の字を使ってきたのに、今の文楽の語り手の芸名には、「大夫」という字を使っている。それは第二次大戦後からのことであるが、その理由は、歌舞伎のチョボを専門とする太夫と区別するためだそうであるが、わたしにはよくわからない。義太夫節からは今更「、」（テン）は取れまいし、元祖義太夫以来二百六、七十年も使ってきた伝統の長い「太夫」の字を、チョボ語りと区別するためという理由だけで、何故、改めねばならないのか、私にはわからない。義太夫の越路大夫と区別して書くことが、妙な気がしてならない。

ところで同じ文字を書いても「津だゆう」と濁ったり、「文字たゆう」と澄んだりするのは厄介である。しかし、次のような法則で片づくのではなかろうか。

(1)二音節（仮名の二文字に相当）の名につづくばあいだけは、「たゆう」と澄む。

(2)それ以外（一音節または三音節以上）はすべて「だゆう」と濁る。

例をあげると、織大夫・咲大夫などは、「おり」「さき」と二音節であるから、澄んで「おりたゆう」「さきたゆう」などと発音する。津大夫は、「つ」が一音節であるから「つだゆう」であり、越路大夫は、「こしじ」と三音節であるから、「こしじだゆう」となる。

この法則は義太夫以外でも、清元志津太夫は「しずたゆう」、常磐津千東勢太夫は「ちとせだゆう」となるなど、みな当てはまるのである。

しかし、古代の官位では、「だゆう」と濁れば従四位、「たゆう」と澄めば、五位をさすという風に、位の違いがあった。こんなことまで気にすると、「たゆう」はいやだという人が出るかも知れない。ややこしいことではある。

名簿作製中！

今秋を目標に義太夫協会会員名簿を作製いたしております。

○住所の移転・地番変更、電話の新設・局番変更等があった場合。

○知人・同好者の中で協会賛助会員に加入される方があった場合。

○広告欄もありますので希望の折。

右のようなことがございましたら、九月末日までに事務所宛お知らせ下さいますよう。

国立劇場文楽研修生

佐々木　英之助

〃津軽のじょんがら節から、引抜いてくるわけにはいきまへんか。〃　〃どうしても来てがないときは、盲学校に頼んでみたらどうだす。〃

財団法人文楽協会は出来たが、その後、若い後継者の志望してくる者がすくなく、このまゝでは衰滅してしまう外はないと、このことを考えると、文楽の長老たちは頭が痛かった。

昭和四十七年春、国立劇場は伝統芸能後継者の養成事業として、歌舞伎俳優についで、文楽の研修生を公募することに踏み切った。応募者十五名の中から選考の結果、太夫五、三味線五、人形一の十一名を採用した。永い伝統と歴史をもつ文楽としては未曽有の出来事であった。研修期間は、文楽技芸員としての基礎教育二ヶ年。研修科目は、義太夫、三味線、琴、胡弓、人形実技、作法（茶道・書道）のほか、全科目の一〇パーセントが邦楽概論、人形浄瑠璃史、上方文化史、丸本講読等で、実技には人間国宝級、講義には東西の第一線級の学識経験者を網羅する豪華な陣容で、斉藤理事長をして、「日本一小さい、日本一贅沢な学校」と言わしめた。

〃二年そこいらで、太の三味線が弾けるんやったら、わてら商売人が苦労しまへん。〃

〃足十年、左十年、主遣い十年というのは昔のことだすが、教室で人形教えるんなんて、どだい無理な話で、巡業に連れて行くんが一番よろしいで。〃

昔から音曲の司と云われ、数ある邦楽の中でもその修業の道はきびしく、至難とされていた人形浄瑠璃、まして幼少の頃から始めないかぎり習熟することは不可能だということが定説となっていた世界だけに、研修生の平均年令が二十一才と聞いては、基本方針について文楽の内部からきびしい批判の声があった。着物の着方、帯の結び方からはじまって、真・行・草のお辞儀の仕方、三味線の構え方、調子の合わせ方、開口（かいこう）といわれる発声訓練、毎日ある義太夫の時間も、三味線の時間も、坐り続けねばならないが、これも修業の一つ、しびれが切れる。足章魚が出来る。腕かためのの訓練は、さらにきびしく腕や手首の感覚が麻痺して失神するものも出た。咽喉に炎症を起して、声が出ませんと訴えてきたものもあった。

人形の実技の時間は、太夫・三味線、人形の所謂三業に分化するまでの一年間は、太夫、三味線志望者も全員必須科目、せいぜいツメ人形か、足遣いの訓練までというのが、立つ、坐る、歩くの基本的な動きから、棒足、ネジ、継ぎ足、巻き足、ギバ、ガッシ、樋口、かんぬき、弓張り……と、逆に講師陣に熱が入り、基礎技術の研修ということにかぎり、すべての杞憂は吹っ飛んだ。かくて、去る三月、一人の落伍者もなく全員が文楽協会に所属し、幹部技芸員に入門した。研修生の涙ぐましい精進をたゝえる前に、それにも増して、並々ならぬご尽力を賜った講師諸先生方に、心からお礼を申上げたい。

最近、私は劇場の内外で、〃文楽の養成も軌道にのりましたね〃と言われる。私はそのたびに苦笑せざるを得ない。伝統芸能の後継者養成の仕事は、若い人を集め、基礎技能をさずけて、その世界に送りこむだけの役目でよいのだろうか。この仕事にたずさわるかぎり、この考え方が私の仕事への支えであり、伝統芸能に対する私の愛情である。

研修生諸君よ。　初心忘れず、頑張って呉れ給え。

義太夫振興のための いくつかの提案

河野　国声

多忙のため久しく義太夫界にご無沙汰をしていた私が、菊地秋月先輩からのすゝめで、四月三十日東横劇場名韻会に出演した機会をとらえ、思いついたいくつかの義太夫振興策を提案してみたいと思います。

一、義太夫はむづかしい、お稽古に時間がかゝりすぎ、特に昨今のような多忙の時代には向かない、私が禅の難入難解なのを改良して、寝ていてできる真呼吸禅を開発したように、義太夫も師匠の語りをテープに入れて、タイ

ムスイッチつきで気楽にイヤホーンで聞き、十分腹に入った頃、師匠について練習したらよい、私は大正時代から古うつぼレコードで、一段もの二十段もおぼえて、それを語って歩いて少しも不便を感じぬのみか、大ていの糸でつかみ合いでも語れた、それは型がよいのと、丁寧忠実に身につくからで、今ではテープで一段居ながらでも聞けるから稽古は何倍もらくにできるという便利もある。

日本中の師匠達が自分の得意のものをテープに入れて、お弟子さんを仕立てたり、協会にも寄贈しておいて、貸し出したり、後世に芸を遺し乍ら、斯道の振興普及に貢献すると一挙三得になる。

二、長い一段を一人語りするのは語る人は楽しいが、聞く人はよほど上手でないと飽きるから、さわり会や、掛合の会などを時々催し、できるだけ大勢で楽しむことなどいかが？同じテープで稽古すれば息は合うし、打合せずにもブッツケ本番でやれて興味は深い。

三、テレビの普及した視聴覚時代、協会にカラービデオの撮影機一揃えを備えておき、芝居や文楽の義太夫ものがテレビに映写される都度、ビデオに撮っておき、それを複製し普通テレビに何回でも映して、自己の語りに合せると聞く人は喜ぶ、聞き手も集る。

四、そのテープからスライドを作り幻燈機によって、スクリーン一杯の大映しにして、文楽の太夫のようにその前で語ることもおもしろい、寺子屋一段が七十枚で、芝居や文楽をみるように場面は変化する、スライドとテープレコードが連動する器機は、三万円位で立派なものが売られている、いつどこへでも持参して天狗ぶりがご披露できる。

勿論営業としては著作権問題も起ころうから、予め承諾を得る必要もあろうが、家庭用の楽しみは自由だろう、これは大人の道楽には一寸したブームを起すかもしれない。

五、義太夫の振興策については、文楽があれほど努力してもうまくゆかないくらいのもの、しかも仲間内がうるさくてなかなか一致しない悪習もある、東京には幸にも仙広という各方面に顔のきく女傑がいる、この人に多くを任せて自由に働いて貰ったら、きっとおもしろい結果が出ると思う、私は仙広さんの熱意と力量を知っているから、斯界の方々に切にこれをおすすめする。

暑中お伺い

副会長　豊沢仙広

暑中お見舞申し上げます。

皆様、毎日おけいこを楽しんでいらっしゃいますか。東京の御連中様は、聞く度に驚く程御上達が早いですね。正会員の私共はぶらり〳〵の感じでお恥しいようです。しかし義太夫教室、学生さんの上達ぶり、これまた驚いております。二年間に七人のプロ入りで今春大学卒が三人、美人美声で月例の本牧亭公演、二高座勉強出演、おの〳〵師匠の糸ですっかり調子にのり、姿も声も可愛らしいので、お客様にも喜んで頂き、楽屋一同大喜びで表にまわって聞くのです。今にも呂昇・昇菊・昇之助、昔の女義全盛時代が来るようで幹部一同楽しんで新人に力を入れております。

本牧亭のお客様も若い層が多くなり、楽屋も若い人たちのお手伝いで口上も、宵ぶれも皆、新人のうまさ〳〵、女義界もすっかり若がえったようです。三味線のプロ入りのないのが私としては少しさびしいのですが、二十四、二十五、二十六期卒の学生さん、三十人以上、盛んに三味線の稽古をしております。今年の卒業生も十人以上、三味線稽古の申込みあり、稽古三味線の数が足りないと講師はおおわらわです。そのうち三味線のプロ入りもあるものと待っているのは、後継者をつくるため、私ばかりではないと思います。

新しく義太夫教室を始めてから四年です。義太夫節発展を目ざして一同懸命に努力しております。無事につとめを果せるのは、賛助会員皆様の義太夫協会御支援のたまものと、厚く〳〵御礼申し上げます。

皆様、毎月二十日・二十一日、本牧亭へ。若手プロの舞台を見たり聞いたりして、義太夫節発展の御支援頂けますよう伏してお願い申上げる次第でございます。

皆様の御自愛をお祈り申し上げます。

四十九年盛夏

竹本小土佐の芸術と人

―刊行の辞―

内野三憙

卒直に申して自家広告で、真に書きにくい文章です。私は作文がすきで小著数冊を出しましたが、ぜひ人様に読んでほしいと切実な思いをこめて書おろしたのはこれが初めてです。義太夫協会長吉川英史先生から過分の序文を戴きましたが自分では校正しながらあせり過ぎを感じました。

執筆の動機や、今更思いあたる宿命といったものから述べたく思います。私の家系が江戸後期から芸能を好み殊に兄は県下で聞えた素義で、横浜・厚木などでは木戸銭をとる仲間に入りました。私は十三歳から兄の教を受けました。父には村芝居や、厚木に東京歌舞伎がくると連れてゆかれ劇評を聴きました。今考えても父の劇・人形・義太夫評は立派と思えます。年少時の環境は宿命です。

明治末から大正へと、こうした雰囲気の農家は家運の傾くのが常で、私は中学へゆけず、高等小学を卒えると架空の大志を抱いて出郷、以後は旋風中の紙屑のような青年期を過しました。

大志は小成に了り、医師となり病院を設け助手を使う時代に入った頃、竹本小土佐媼は小土佐倶楽部に拠り、弟子育成、素義指導に当りました。倶楽部が病院の近くで、私も田舎義太夫の手直しを頼みましたが癖は抜けず、職務上そう疑れず物になれませんでしたが宿命の糸は切れず、長い交際のうちに媼の芸と人の偉大さを識りました。

それは世評にも、また女義界初の紫綬褒章、勲五等宝冠章受賞で明かです。調べたり書いたりにつれて額面以上の偉さが解りました。小土佐の芸術については昨年中に見聞しえた文献と探訪とで、媼の師四代目土佐太夫の指導ぶり、天才少女から大成に至る経緯を誌しました。人については人間の心理面を重点とし、媼の義太夫新作や俳句・書・画の文人趣味に及び、通じて明治という時代背景の裏付に力めました。現代人の思想は歴史尊重と批判とに分裂していると思います。芸能史のうち浄瑠璃史は江戸期に終っています。その意味で「義太夫年表明治篇大正篇」はすぐれた業績です。女義史は書かれていません。女義で単行本は呂昇と素女二冊に過ぎません。竹本小土佐の単行本がなかったのは芸能史上の欠陥でした。

私は一昨年、隠栖地に百一歳の媼を訪ね、急に生前一書をつくり手に持たせたく思立ち、昨年末脱稿、一月に発行書店と四月発行の契約をしました。これがらちがあきません。死なれては残念と心配し続けました。遂に発行書店を変更して、初念が満たされ、左記のとおり発行するを得ることになりました。

執筆中、大正期からの女義界衰退を最も悲しんだのは、明治女義隆盛の先達竹本小土佐だと何度も思いましたので、別冊の意味で巻末に「現代義太夫界の趨勢」の章を付し、義太夫・文楽復興の現況を媼に喜んでもらうことにしました。以上のわけで、未熟なものでありますが、幸に江湖の共感をえて御愛読御高教を賜りたくお願い申上げます。

昭和四十九年七月　著者　敬白

記

「竹本小土佐の芸術と人」　内野三憙著

B6（四六判）三三三頁
上製美装貼函入　定価二五〇〇円
限定千部番号入　装幀著者
口絵　竹本小土佐画各一　著者油彩原色二点　他図板・文献的写真

発行所　株式会社新泉社　七月七日発行
113文京区本郷二―一五―二〇
電話　〇三―八一五―一六六二
振替　東京一六〇九三六
直接扱　243-03神奈川県愛甲郡愛川町角田九五〇　内野正幸
電話〇四六二―八五―一四九三
振替　横浜五一六七五

―・―・―・―・―

尚、協会事務所でもお取扱いしておりますので、御希望の方はお申しこみ下さい。

協会の動き（49年1月より 49年8月まで）

義太夫教室同景（日本経済新聞社提供）

〔昭和四十八年度〕

1月15日　新事務所披露。正午～3時

1月20・21日　女流義太夫公演会、於本牧亭

1月24日　学校巡演、於小松川高校。

2月2日　新年懇親会、於ほんもく

2月4日　邦楽連合会主催、東京都後援「邦楽演奏会」昼の部に土佐広・仙広他の「阿古屋」、夜の部に春駒、駒之助、三生の「加賀見山」参加於第一生命ホール

2月20・21日　女流義太夫公演会、於本牧亭

2月23日　定例理事会　於新小松。定数に足りず流会。

2月27日　学校巡演。都立向ケ丘高校生徒に「新口村」「義太夫の曲節」を聴いてもらう。於上野文化会館。

2月28日　義太夫教室26期終了。生徒は集団から個人稽古にうつる。

3月20・21日　女流義太夫公演会、於本牧亭。豊沢公治・竹本綾司・豊沢公佳に芸団協奨励賞おくらる。

3月26日　名鶴会学生大会に義太夫教室生徒出演。越若・越孝の「柳」、綾司・公佳他の「三番叟」。補導越道・吉平・彌乃太夫。於東横ホール。

3月28日　定例理事会。49年度予算案・事業計画の件他。於文明堂。

〔昭和四十九年度〕

4月19日　前会長故豊沢松太郎師七回忌法要に会員多数参加。於良信院。

4月20・21日　女流義太夫公演会、於本牧亭。竹本素之助・竹本路之助初舞台。

4月26日　文化庁より四十八年度助成金、百万円交付。

5月9日　義太夫教室第27期開講。俳優協会稽古場にて、会長・副会長挨拶の後、直ちに講義・実習に入る。35名入講。

5月15日　定例理事会。49年度総会の件。於須川二階。

5月20・21日　女流義太夫公演会、於本牧亭。

5月24日　昭和49年度総会。会長・副会長挨拶、48年度決算報告（9頁参照）49年度事業計画、役員改選（別表参照）等行われる。会長以下33名出席。於新橋演舞場三階大食堂。

6月6日　日本経済新聞夕刊に義太夫教室の稽古風景が取材・掲載された。女流若手勉強会、この三年間に入門した新人七人を含む若手全員が出演。竹本越若・竹本越孝・豊竹公二郎初舞台。客席もいっぱい、賑かな会。於本牧亭。

6月8日　NHKラジオ（第一）の〃午後のロータリー〃で義太夫教室について電話インタビュー、竹本彌乃太夫が応え、放送された。

6月14日　定例理事会。新理事、参事の決定及びその担当部門について、その他、会員の特典（本牧亭招待券）の改正を行った。於新小松。

6月20・21日　女流義太夫公演会、於本牧亭

7月5日　私学教師の国語研究会。吉川会長の講演と朝重・津賀昇の「柳」土佐広・仙広の「新口村」の実演が行われた。於私学会館四階大広間。

7月8日　義太夫教室27期閉講式。吉川会長挨拶、皆勤賞授与等が行われ、盛会裡に終る。約二十五名卒業。

7月9日　納涼賛助会員演奏会。義太夫の他民謡・常磐津・小唄・乙女文楽等賑かに催された。於三越劇場。

7月11日　義太夫教室27期語り中級開講。

7月12日　〃　三味線初級開講。

NHKテレビ〃カメラリポート〃で義太夫教室の稽古風景が、全国放映され、多大な反響があった。

7月20日　常務理事会。各理事の役職の選定、後進者養成について他。於新小松。

7月20・21日　女流義太夫公演会、於本牧亭。

8月15日　会報第4号発行

◇寄　贈◇

昨年度より、左記の方々からの御寄贈がありました。いずれも、益々さかんになりつつある義太夫教室に欠くことの出来ない品や、大変貴重な資料ばかりでございます。有効に活用させて頂きたいと思っております。

本当に有難うございました。改めて御礼申し上げる次第でございます。

× × ××

（以下順不同）

野沢　吉平様　三味線　四挺
竹本　歳栄様　三味線　一挺
豊沢義三郎様　三味線　三挺
鶴沢　英治様　三味線二挺
竹本綾太夫様　三味線七挺（提供）
　　バチ　十五挺
豊沢宗之助様　胴かけ・根尾・糸
竹本藤太夫様　バチ　三挺
豊沢伊三郎様御遺族　五行本　一二〇冊
　　院本　一一冊
　　台本　三冊
　　横とじ　二二六冊
　　テープ　七九本
　　カセット　三二本
　　ノート　一九八冊
　　座ブトン　一枚
　　糸　一箱
桜井　銀星様　竹本小土佐の作品
堀込　栄様　明治情話　万里の首途
吉川　英史様　娘鏡花乃萬燈（コピー）
　　五行本　一二冊
豊沢　仙広様　着付・浴衣
　　胴袋　一
　　根尾　二ケ
竹本　春華様　バチ　一挺
　　バチ袋　二枚
　　ゴム　多数
豊沢　螢緑様　三味線　一挺
　　胴袋　一枚
鶴沢紘二郎様　三味線二挺（提供）
　　三味線　二挺
　　根尾　八ケ
鶴沢駒登久様　バチ　一挺

―お見舞―

豊沢猿公（小原　貞）さんが、左記に御入院中です。

一日も早い御恢復を　―

新宿区津久土町二三
東京厚生年金病院東四階四六二

役員表（各五十音順）

会長　吉川　英史
監事　佐々木明郎
副会長　豊沢　仙広
　　鶴沢　重造
常務理事　竹本　越道
　　竹本彌乃太夫
　　相談役　豊沢猿三郎
理事　野沢　吉平
　　参与　竹本　糸三
　　竹本　朝重
　　竹本重之助
　　竹本綾太夫
　　鶴沢　三生
　　竹本綾之助
　　参事　竹本　綾司
　　竹本扇太夫
　　竹本　越春
　　竹本　光末
　　豊沢　公佳
　　竹本駒之助
　　豊沢　公治
　　竹本　駒龍

事務局　竹本綾太夫
　　竹本土佐広
常勤職員　水野　悠子
　　竹本　素八
非常勤職員　竹本　越孝
　　鶴沢駒登久
　　竹本　越若
　　鶴沢津賀昇
　　竹本路之助
　　豊沢　猿公
　　竹本素之助
　　豊沢義三郎
　　豊竹公二郎

業務分担

一、研修部
　1. 本行部門　重造・土佐広・猿公
　2. 舞踊部門　吉平・駒登久
　3. 歌舞伎部門　扇太夫・義三郎

二、養成部
　1. 義太夫教室　佐々木
　2. 専門技芸士　彌乃太夫

三、公演部
　1. 正会員　素八・津賀昇
　2. 賛助会員　吉平・春華・越春
　3. 女流（月例）　越道・駒龍・駒之助

四、普及部（学校巡演他）土佐広・光末

五、編集部　朝重・公治

六、資料部　綾之助・綾司

七、経理部　彌乃太夫・公佳

八、渉外部　仙広・朝重

義太夫教室の誕生と現況

佐々木　明　郎

「東の川口、西の武智」と称された古典演劇界の鬼才川口子太郎氏（浄瑠璃研究家・院本カブキ演出家、現在都下の山中に隠棲）が敗戦直後の混乱の最中、昭和二十三年初頭、氏と共に義太夫教室生みの親となった故野沢吉二郎師と、育ての親故坂本元明氏（当時素義界の重鎮、芸名あるを）とに対して青年の浄るり研究のために義太夫教室を設立することを提唱した。これを耳にした故安藤鶴夫氏から、素義をつくるのか玄義を育てるのかと問われた川口氏が、「自分でもはっきりしていない。結果的にはプロやセミプロが出てもよいが、それが目的ではない。しかし、所謂素義をつくるためではない。」と答えた。それでは何が目的か。そのとき周囲で聞いていた人々の疑問はそれきりで発展しないまま、当時坂本氏が総務であった素義団体東京五十義会が教室の設置母体となり同氏が運営に当り、同年六月に第一期入門講習が発足した。後日川口氏のこのことばを独り理解した坂本氏は晴天の霹靂の如き衝撃を覚えた。詳説の暇は無いが、川口氏の発想と坂本氏の問題意識とは、浄るり史に明記さるべき意義をもつこと、教室二十七年間の性格と軌跡とを方向づけたこと、および義太夫界に有形無形の波紋をもたらす原点となったことは否定できない。坂本氏は翌二十四年に素義中心の義太夫協会を設立。（教室の経営も協会に移る。）二十五年に同志数名と共に玄義に転向し豊竹阿彌太夫を名宣る。（のち八代目豊竹湊太夫。二代目阿彌太夫は現竹本綾太夫。）三十二年協会は玄義の義太夫因協会と合併し玄義中心の新・義太夫協会に改組。氏は懸案の法人化実現を期したが、笛吹けど踊らずの譬えどおり弧軍奮闘に終り、健康保険等福祉事業のみ実現。晩年は病床から、かねて期待をかけていた豊沢仙広女史の男まさりの経営手腕に後事を託して静観。四十年代の、仙広師初め人々の努力により、吉川英史先生を会長とする法人が四十五年六月十五日附を以て七月初めに実現する直前、六月二十五日逝去。

第一期の講義は川口氏、吉二郎師等。実技は吉二郎、鶴沢三生、豊沢猿幸（現猿公）師で太十、野崎。第二期は吉二郎、先代竹本綾之助、三生師で宿屋、毛谷村。第三期（二十五年）は鶴沢清六・三生師等で安達他。第四期から第十期頃まで鶴沢重造・辰六・三生、豊沢猿蔵・猿三郎・猿玉・仙玉、竹本綾作・越道・福彌等の各師で鮓屋、十種香、妹背の御殿、先代萩の御殿、柳の木遺、いろは送り、酒屋、吉野山等。この間豊竹若大夫、鶴沢綱造・綱助・絃二郎、先代竹本朝重、野沢吉平その他の各師も機会ある毎に協力。自費を以て経営に当った坂本氏に故海南下村宏先生、湯浅光玉（現竹本常太夫）・小林隅斗・故三並義昌氏等も運営に協力。

以後は入会者が漸減し、特に第十三期（安保騒動の三十五年）から第二十三期（安保改訂騒動の四十五年）までは極めて低調で毎年一人か二人しか集らず、やむなく個人教授の形で続けたが、指導は主に故辰六師が担当。

しかるに第二十四期（四十六年度末、四十七年二・三月に入門講習の初級）は六十名の青年男女が入会、講義は吉川会長（邦楽史）、佐々木（浄瑠璃史）、彌乃太夫師（音調基本）、綾太夫師他。実技は猿三郎・三生・素八・駒之助師で太十、先代の御殿等。第二十五期（四十七年七・八月に初級）は吉川会長、佐々木、彌乃太夫師等の講義があり、生徒は四十名。実技は重造・越道・光末・朝重師等で太十、柳、いろは送り等。

第二十六期（四十八年六・七月に初級）は七十名。実技は重造・綾之助・春華・朝重師で十種香、先代萩、新口村等。

第二十七期（四十九年五・六月に初級）は四十名。実技は重造・重之助・素八・朝重師で太十、いろは送り、柳の木遺り等、現在中級実施中。

第二十四期以降は毎期、入会者の約半数が各二ケ月づつの中級・上級、およびこれと並行しての三味線入門講習を引続き受講し、そのまた半数が入門講習の上級修了後も個人稽古を続けている。この間に竹本素之助・路之助・越若・公二郎の四名がプロ入りし、また、教室以外でもこの前後に竹本綾司・豊沢公佳、並びに竹本越孝の三君が玄義になっている。

四十六年度から何故入会者が激増したか、そして将来指向すべき方向は？　此等は今後慎重に検討されなければならない。

義太夫の譜のあり方

竹本　彌乃太夫

義太夫教室の過程を了えた若い人達は、テキストにより、集団三味線実習を行っている。

私がいつも痛感していることは、なぜ三味線の譜（朱章）が、もっと一般に普及しなかったのか、ということである。一つの曲目を選んでも、先輩師匠達は、その曲の譜は、簡単に教えてもくれないし、書いたものでも見せてはくれなかった。―それなりに理由はある―譜は忘れない程度に記録に留めるためのもので、それには自分なりの記譜の仕方がある。汎して苦労して覚えたものを、容易に人には見せられない、という考えが誰でもあるからである。早い話があんちょこを見て答案用紙を書くようなことを嫌って、頭にいれる、体で覚えるといった様な方法で芸を勉強するのである。それは今でも一面大切な事でもある。併し、教える側の考え方で、何もかも提供して、あとは自分の力で努力させる方法があってもよいと思う。意欲さかんな向学途上の若い人達は、早く何んでも吸収したい。理窟抜きでそれに或程度応えてやりたいものと、私は自分の力の範囲で、私なりの朱を書いて教えている。これまで義太夫は記譜の方法が人によってまち〳〵で、絶対的な統一性がないのが残念である。特に拍子に至っては此れまでの朱章を見ても判断に苦しむものが多い。

それだけ義太夫節は浄るりなるが故に、間拍子の変化や表現力が難しく、譜には表わせようがないんだ、とも言える。それと一種の派閥的な傾向は免れないものと思えるが、誰々の型は斯の様な施律を使っている、とか間を斯の様に持つとか、個人々々によって同一の曲目でも、何通りかの行き方がある。それに加えて、演者によって新しい表現法が用いられるとなると、益々曲目自体でも統一性を欠く。（寧ろ一般の聴衆は、その方が多彩で興味深く喜ばれるのであろうが……。）まあ、それはよいとしても、採譜に至っては記譜の仕方を或程度統一して、早い時期に義太夫の譜を確立することが次代の人の為に、大事なことゝ思っている。教室の場合比較的リズミカルで、曲節本位の曲目を選んでいる。若い人の感覚は、音楽的にかなりシャープであるから、道行や景事物或は小曲集といった様なものを吸収することは、容易である。太棹という楽器の音色に魅せられ、或る環境に育ったとか、歌舞伎が好きだという予備的なものがなくても、或る日突然という現代ッ子が飛込んでくる芸の社会には、それらの若者に応えてやれる方法を考える事が当事者側では必要でなかろうか。

ともかく後世の為に斯界の発展に専心したいと思っている。

女流義太夫公演会（若手勉強会）

八月二〇日（火）

傾城阿波の鳴戸　竹本路之助
巡礼歌の段　鶴沢駒登久
御所桜堀川夜討　竹本　越若
弁慶上使の段　竹本　越孝
本朝廿四孝　竹本　越道
十種香の段　豊沢　公佳
傾城恋飛脚　豊沢　公治
新口村の段　竹本　広松
桜鍔恨鮫鞘　豊沢　公純
鰻谷の段　竹本駒之助　鶴沢　三生

八月二十一日（水）

傾城阿波の鳴戸　豊竹公二郎
巡礼歌の段　竹本　糸三
日吉丸稚桜　竹本素之助
小牧山城中の段　竹本　素八
卅三間堂棟由来　竹本　綾司
平太郎内より　鶴沢　清三
木遣音頭の段　竹本　綾一
義経千本桜　豊沢　公純
鮓屋の段　竹本　朝重
生写朝顔話　鶴沢津賀昇
宿屋の段　豊沢　公佳
琴

お暑い折ですが全員一生懸命つとめます。何卒御来場のうえ、御批判、御批評下さいますようお願い申し上げます。

於　上野本牧亭　入場料　五〇〇円

貸借対照表 （48年度）

金額	勘定科目	勘定科目	金額
62,633	現金	基本財産	3,000,000
256,573	当座預金	運用財産	1,100,000
3,000,000	定期預金	前受金	40,000
7,935	郵便貯金	借入金	500,500
59,500	普通預金	預り金	1,066,000
334,000	未収入金	未払金	1,517,720
0	前払金	繰越損金	△1,067,882
693,465	備品	（小計）	6,156,338
245,000	敷金	差引損益	△1,423,794
73,438	電話加入権		
4,732,544	合計	合計	4,732,544

損益計算書 （48.4.1.～49.3.31）

収入の部	科目	支出の部	備考
641,000	会費		
927,500	寄附金		
219,649	銀行利息		
200,000	補助金		
57,239	雑収入		
656,200	女流公演会	959,730	△ 303,530
277,000	賛助会員会	225,650	51,350
699,150	義太夫教室	2,051,560	△1,352,410
352,888	慈善公演	375,210	△ 22,322
885,350	東京都邦楽祭他	269,000	616,350
25,000	学校巡演	130,000	△ 105,000
	給料手当	625,300	
	賃借料	265,469	
	会議費	78,810	
	事務費	40,425	
	印刷代	220,050	
	交通費	46,370	
	通信費	126,567	
	消耗品	101,460	
	交際費	146,850	
	光熱費	3,969	
	税金	5,890	
	倉敷料	65,000	
	祖先祭	41,520	
	雑費	16,940	
	雑損	569,000	
4,940,976	小計	6,364,770	
	差引損益	△1,423,794	
4,940,976	合計	4,940,976	

〝テントントン〟

竹本彌乃太夫

夜になっても、三十度を越す猛暑に、熱心な生徒達は殆んど一人の欠席者もなく三味線の稽古に来る。協会三階の稽古場である。小部屋と大部屋があるが、大部屋を借りると一時間二千円とられるので、その半額ですむ小部屋を借りる。ところが椅子を全部廊下に出した八畳間に、十三人の生徒が三味線を抱えて坐ってみる図を想像して下さい。クーラーも扇風機もない、それこそ蒸風呂に入ったようで身動きも出来ない、加えて三味線の構え方撥の持ち方から始める初心者ばかりだから、教える側は頭の痛くなる話。：正常な音が出ない、変だと思ったらコマが浮いている。かしてごらんとトントンと小槌で叩く。プツンと糸が切れた！取り換えようとしたら予備糸がこま結びになっていて仲々ほどけない。サア始めよう、基本練習テントントン、ツンテントン。皆一生懸命頑張っている。その熱心さに打たれて私もハッスル。姿勢が悪い！天神が高い！坪が違う！三が低い、もっと上げて！不協和音の中で注意のし通し、もう声も枯れ々々：：。でも少しでも糸道がついて来たら、朱が分ってテキストの小曲集が弾けて来たら、本人達も面白くなるだろう、その喜び以上に筆者の満足とするところである。現在は二十七期生、既に同じ事の繰返しで四年目を迎えるのである。

芸能人年金のお奨め

昨年正会員の皆様に芸能人年金お取扱いについて御案内致しましたところ、23名の方が加入されました。この年金には種々の特色がありますが、65才から支給（60才以上で加入した人は5年たつと）されるという年金の性格に加え、いつでもおろせる定期預金の性格と、病気やけがの見舞金があるという病傷害保険の性格とを併せ持っています。芸能人の為だけに作られた素晴らしい年金です。当協会としてはお一人でも多く加入されることをお奨め致します。お問合せは事務所まで。

❀協会よりお願い❀

―三味線不足に困っています―

義太夫教室もこのところ順調にすすみ、現在は二十七期生の語り中級講座、三味線初級講座、二十四・五・六期生の自主講座が行われております。これも偏に会員各位のお力添のおかげと、深く感謝しております。

ところが、教室が発展し、新しくプロが誕生すればそれ丈悩みのタネが増えています。というのは、三味線・バチ・コマ等が大変手に入りにくくなっているからです。会員の皆様、又はお知り合いの方で、三味線その他付属品を御提供下さる方はいらっしゃらないでしょうか。義太夫の今後の発展のため、協会では皆様の暖い御支援を心からお願い申し上げます。

◇訃　報◇

関　長門氏（賛助会員）47年4月5日歿
武田　陽蔵氏（賛助会員）48年2月7日歿
相沢　薫氏（賛助会員）48年2月11日歿
大堀　茂樹氏（賛助会員）48年6月19日歿
豊沢伊三郎氏（正　会　員）48年6月28日歿
豊沢猿都糸師（正　会　員）48年7月6日歿
岡田　英三氏（賛助会員）48年11月19日歿
藤本　盛司氏（特別会員）48年11月21日歿
河守　痴楽氏（特別会員）48年12月6日歿
豊沢緋佐子師（正　会　員）49年1月15日歿
大木　保氏（参　与）49年4月20日歿
中西　紫光氏（賛助会員）49年6月8日歿

十二霊位の御冥福を只々お祈り申し上げます。

編集後記

会報第四号をお届け致します。暑中見舞号の予定が、新役員の登記等の用事のため、残暑見舞号になったことをお詫び申し上げます。

次号は、秋にヤング（若手）の特集を企画しております。若い方の意見や、諸先輩から若手に望むこと等、沢山の御寄稿をお待ちしています。（九月末日まで）